

別海町郷土資料館だより

No.89・2006・12

町内小学生が当館で郷土学習



10月26日～27日、別海中央小学校4年生のみなさんが郷土学習のために来館されました。当館戸田峯雄調査員の指導のもと、黒曜石のかたまりを砕いてその石片で紙を切ってみたり、大小様々なノコギリを実際に使ってみたりしました。また、資料館に展示されている古い道具をスケッチするなど、昔の道具について学んでもらいました。

後日、生徒のみなさんから感想文が送られてきたので、以下にいくつか紹介します。

- ・「きょうどしりょうかんではいろいろ古いものがあったとてもおもしろかったです。中でも電話のしゅるいがいろいろあっておもしろかったです。」
- ・「すごく大きいノコギリがでたときはびっくりしました。そんな大きいのこぎりははじめてみました。」
- ・「わたしはこくようせきを見てほしくなり、学校がおわってからあばしりにいきました。30分ぐらいさがしてもなくてかえろうとしたら、1コこくようせきがあってそれをもってかえって、おとうさんにこくようせきをわってもらいました。あつがみをきってみたらかんたんにきれました。」

11月17日には美原小学校4年生のみなさんが来館されました。今回は昔の道具の解説を、美原在住の西川稔さんをお願いしました。

西川さんは1952（昭和27）年19歳の時に佐賀県から渡道、翌年春に西春別地区に入り酪農業に従事、その後1963（昭和38）年に床丹第一地区（美原）に移られました。



西春別時代に使っていたプラウの説明をする西川さん（写真右）。プチプチとササが切れる気持ちのいい音がしたそうです。

プラウやクワ、ノコギリ、さつてといった昔の農具や馬具についての解説の他、燕麦を使ってウサギを獲ったこと、炭をたくさん焼いたことなど、大変な苦勞をしてきた当時の実体験に基づいて説明していただきました。美原の大先輩のお話に、小さな後輩たちは真剣に耳を傾けていました。
（文責 戸田博史）



戦前から貴重な現金収入源であった炭焼きについて説明する西川さん。今でも炭焼きには自信があるとのこと。

主催事業ふるさと講座 自然系・秋の渡り鳥観察会

11月11日(土)に自然系「秋の渡り鳥観察会」が、野付半島で行われました。講師は、上西春別中学校教諭の藤井薫氏で、ネイチャーセンター～竜神崎～先端部にかけて渡り鳥を中心に観察を行いました。

観察出来た野鳥は23種類で、特に先端部では、同半島で越冬する数が国内最大のコクガン(天然記念物)や約4千羽近いオナガガモの大群などを観察し、野付半島が渡り鳥たちにとって重要な地点であることを改めて認識させられました。



観察した野鳥

①ネイチャーセンター付近

オナガガモ(4千羽)・ヒドリガモ・ハクチョウ・トビ・ヒメウ・クロガモ・アビ・オオセグロカモメ

②竜神崎付近

スズカモ・ハシビロカモ・オオバン

③先端部付近

ハマシギ(2百羽)・ダイゼン・ウミアイサ・コクガン(412羽)・アビ・コオリガモ・ミミカイツブリ・オジロワシ・オオワシ

④その他

ハヤブサ・コチョウゲンボウ・シロカモメ・ウミネコ
(文責 石渡一人)

別海町の歴史遺産を 文化庁調査官が調査

11月15日(木)～16日(金)に文化庁主任文化財調査官の江面嗣人氏が来町し当町の歴史遺産を調査しました。

調査地は、戦争遺産として残る計根別飛行場跡・西春別軍馬補充部跡、産業遺産の別海缶詰所跡、道指定文化財の奥行臼駅跡、町指定文化財の奥行臼駅・加賀家文書、昨年まで発掘調査を行っていた野付半島などです。

あわせて文化財、観光、町づくりに係る担当部局との懇談会も開かれ、「文化財・歴史遺産は、従来の保存のみの考えから、どのように活用していくかが、今後の町づくりなどに反映していくと考えられる。」と言われていました。

地域によっては、十分な調査は行われていませんが、先人たちが残した貴重な歴史遺産を守っていくことが、私たちの使命かと思えます。

(文責 石渡一人)



郷土資料館のお知らせ(12月)

- 休館日 2日・3日・11日・16日・17日・23日
25日・29日・30日・31日
- 開館時間
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料
一般個人 300円 一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.89

発行日 平成18年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802(FAX兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 資料館に展示してあるモノの大部分は、私自身全く使ったことのないものばかりで、使い方などは書物に頼っています。今回ご紹介した西川さんのように、今は全く使われなくなった生活用具や農機具を実生活で使ってもらった方の具体的なお話を直接聞くことは、私にとっても大変勉強になります。(戸田博史)